

## 国際家族計画連盟第2回西太平洋地域セミナー

1966年5月26・27両日、東京・保健会館において、標記のセミナーが開催された。香港、韓国、日本、台湾および沖縄の I P P F (国際家族計画連盟) 西太平洋地域諸国のほか、さらに地域外からセイロン、デンマーク、インド、インドネシア、パキスタン、フィリピン、タイおよび U S からの参加があった。参加者は上記の13か国から外国人44名、日本人57名で予想を越える盛会であった。

第1日の5月26日、開会式で始まったが、I P P F 会長 Lady Rama Ran、日本家族計画連盟古屋芳雄会長、鈴木善幸厚生大臣ならびに I P P F 地域協議会長 Mrs. Veronica Browne のあいさつがあった。

第1日の共通課題は communication と motivation の経済的社会的側面を中心とした。午前、開会式につづいて報告会にうつり、筆者(館)が司会して、(1) Dr. Tae Ryong Kim (ソウル国立大) が韓国都市における communication の各種の方法の効果、(2) Mrs. Laura Li Fook Wo (香港家族計画協会) が同協会の実地指導員に関する研究、(3) Dr. K. K. Chang (台湾, Sino-American Joint Commission on Rural Recoustruction) が台湾における motivation の分析、(4) 河野稠果博士(日本, 人口問題研究所) が日本における出生力の経済的社会的な作用要因についてそれぞれペーパーを提出して報告をなされた。(5) 野津聖博士(日本, 厚生省) は日本の家族計画の行政面についてペーパーを提出された。

第1日午後は村松稔博士(日本, 国立公衆衛生院) 司会で、motivation と communication に関するパネル討議が行われた。パネリストは Mrs. Wo (香港)、Dr. Sang Hwan Song (Yonsei 大)、Dr. K. K. Chang (台湾) および菊地浩博士(山形県衛生部長) であった。

第2日の共通課題は医学面で、午前中、Mrs. Browne (香港) を司会者として、(1) 松本清一教授(群馬大) の絛虫受胎調節剤の医学的研究、(2) Dr. Hee Yong Lee (ソウル国立大) の男性断種ノイローゼの研究、(3) Dr. Esther Anderton (香港) の IUD (Intrauterine Device) の臨床評価、(4) 小林拓郎博士(東京大) の脳視床下部による GRF (Gonadotropin-Releasing Factor) による脳下垂体性腺刺激ホルモンのコントロールに関する研究、(5) Dr. Hsia-Chang Chen (台湾人口センター) の面接による IUD 挿入者の追跡調査および(6) Dr. Hyun Mo Kwak (Yonsei 大) の Lyndiol 5 MG の臨床研究についてのペーパーの提出と報告とがあった。

第2日午後は、IUD についてのパネル討議で、Dr. Han Su Shin (ソウル大教授、地域医学委員長) を司会者として、パネリストは Dr. Violet Lee (香港家族計画協会)、Dr. Young Sun Yun (韓国家族計画協会)、Dr. K. K. Chang (台湾) および村松稔博士であった。

多数のペーパーが配布されたが、おもなものは次のごとくであった。(1) Mrs. Shu Shin Hsu-Wong (台湾 MCH 協会) の民間機関の役割、(2) Dr. Sang Whan Song (Yonsei 大) その他の韓国農村における IUD の受容と効果、(3) Dr. Han Su Shin の韓国における IUD の臨床研究、(4) Prof. Hae Young Lee (ソウル国立大) の韓国中都市における家族計画の状態、(5) Dr. L. G. Aromogam (スウェーデン・セイロン・プロジェクト) のセイロン農村における IUD の導入、(6) Mrs. M. Ramanathan (同上) のセイロンにおけるインド人口における家族計画の経験、日本側では、(1) 石浜淳美博士(岩手医大) その他の IUD の長期挿入に関する細胞学的組織学的研究、(2) 松本清一教授その他の Lippes' Loop と太田リングの比較研究、(3) 松永英博士(国立遺伝学研究所) の日本の家族計画の遺伝学的影響、(4) 太田典禮博士の中絶と優生保護法、(5) 黒田俊夫氏(人口問題研究所) の社会変動と再生産行動、(6) 館 稔・中野英子(同上) の分娩後閉経期間の人口学的意義。

今回のセミナーでは、とくに、各国における科学的調査研究の長足の発展が目立ち、事実上、地域間セミナーとなったことは、研究、意見、経験の交換を著しく多彩なものとし、このセミナーを成功に導いたといえる。

(館 稔記)